高木竜馬さん応援レポート 高木竜馬 ピアノリサイタル ウィーンからの風 2017年11月3日(金・祝) 千葉県文化会館 大ホール

デビュー10周年を記念するリサイタル

11月3日、髙木竜馬さんのピアノリサイタ ル「ウィーンからの風」を聴いてきた。

15歳でデビュー(!)した髙木さん、25歳の 今年、デビュー10周年を迎えた。

10周年を記念して2回のリサイタルが予定され、それぞれ10月29日(日)と11月3日(金・祝)に開催された。

会場は10月29日がわたなべ音楽堂(東京・ 葛飾)、11月3日が千葉県文化会館 大 ホールであった。

千葉は髙木さんの地元でもある。満を持し ての10周年記念のリサイタル。

プログラムのテーマは、髙木さんが近年、 注力しているという「欧州の哀しみ」。

ベートーヴェン、リスト、ショパン、ラフマニノフと、「・・・4曲のソナタを選び、密度の濃いプログラム」構成としたそうだ。









会場の千葉県文化会館は、今年50周年を迎えた、客席数約1,700席の大型ホール。「千葉県の音楽史を刻み続けるグランドメゾン」として位置付けられてきたホールは、風格を感じさせる。

気持ちのよい秋晴れのもと、地元開催の 記念すべきリサイタルに、古くからのファ ンの方も続々とご来場。





~欧州の哀しみ。4つの偉大なソナタに哭く~

「欧州の哀しみ ~4つの偉大なソナタに 哭く~」とのサブタイトルが付けられたリ サイタル。4人の偉大な作曲家のソナタ が並ぶ魅力的なプログラム。

大きな拍手に迎えられ高木さん登場。 演奏会はベートーヴェンのソナタ「テンペスト」で始まった。メリハリの効いた強弱、 流れるように弾いていく。

続いてはリストのソナタ。テクニックも魅せながらの熱い演奏。

3曲目はショパンの「ソナタ 第3番」。きらきらと輝くような音色。滑らかに繊細に。

プログラムラストは、ラフマニノフの「ソナタ 第2番」。曲の美しさをじっくりと聴かせながらも迫力満点。高木さんの持ち味ともいえる、スケールの大きな演奏を聴かせてくれた。

偉大な作曲家の4つのソナタを堂々と大 迫力で弾き分ける髙木さんの姿に、客席 のみなさまも10年の確かな足取りを感じ られたことだろう。1曲、1曲に熱烈な拍 手と大歓声が飛んでいた。

アンコールには、ラフマニノフの「パガニーニの主題による狂詩曲 - 第18変奏」。何度も続くカーテンコールに応えて、アンコール曲を2曲。プロコフィエフの「ピアノソナタ第7番戦争ソナタより第3楽章」を、ふたたび大迫力で聴かせてくれての、終演であった。











写真:三好英輔氏

10周年を飾る熱い演奏に来場のみなさまも大満足



写真:三好英輔氏

終演後のサイン会は長蛇の列。古くからのファンの方々とともに、たくさんの小さなお子さん方が並ぶ。目をキラキラさせながら髙木さんとお話しする姿には、思わず目を細めてしまった。

今年、髙木さんは、留学先のウィーンに て、あのウィーン楽友協会ホールで演奏 する機会をいただいた。

素晴らしい経験を活かし、ますます充実の日々を送っているとのこと。10年を超えてからも、さらなる高みへ繋がる演奏を聴かせてくれることだろう。

髙木さん、デビュー10周年、本当におめでとうございます! これからもますますの活躍を!!



◆演奏会プログラム

L.V. ベートーヴェン:ソナタニ短調 第17番 作品31-2 "テンペスト" F. リスト:ソナタ ロ短調 S.178

F.F. ショパン:ソナタ ロ短調 第3番 作品58

S.V. ラフマニノフ:ソナタ 変ロ短調 第2番 作品36 (ホロヴィッツ版)

◆アンコール

ラフマニノフ: パガニーニの主題による狂詩曲 - 第18変奏 プロコフィエフ:ピアノソナタ 第7番 戦争ソナタより 第3楽章